

スキルアップ講座

『ラウンドテーブルミーティングをやってみよう!』



令和6年3月13日(水) 午後6時30分~午後8時30分 @セッション杉並 第8・9・10 集会室

【目的】

自身の地域活動をより良く変えていくヒントにするために、地域活動の実践例をお互いに語り合い聴き合って共同探究する講座を開催しました。

令和5年12月「学び合いのワークショップ」では、ラウンドテーブルミーティング(以下ラウンドテーブル)という手法を、初めての方でも分かりやすい簡易な形式で体験しました。今回は、本格的なラウンドテーブルを実施し、参加者同士の活動をより深く知り、自身の活動を振り返るとともに、話を聴き合う手法を学ぶことを目指しました。また、新たな参加者も募集して実施しました。

ラウンドテーブルについては、区ホームページ「社会教育士と創る学び合い(ページ番号1091398)」掲載の「学び合いのワークショップ」の記録をご覧ください。

【講師】 東京学芸大学教育学部 教育学講座
生涯学習分野 准教授 倉持 伸江

【参加者数】 50名

(内訳) 主に区内で地域活動をされている方 37名
杉並区の職員 13名

1. ラウンドテーブルについて

講師の倉持先生からラウンドテーブルについて話していただきました。

ラウンドテーブルは、地域で活動している人が、お互いの実践経験を持ち寄って、語り合い・聴き合うことを通して共同でふりかえり(省察)・探究し、つながり合い、学び合う場を目指しています。

2. ラウンドテーブルの実施

次に、ラウンドテーブルを実施しました。当日は6名グループを8つ編成し、各グループは語り手2名と聴き手4名(1名はファシリテーターを兼ねる)で構成しました。語り手は、12月の「学び合いのワークショップ」の参加者の中から16名に担っていただきました。

- ① グループでの自己紹介
- ② ラウンドテーブル 1事例目(40分)
- ③ ラウンドテーブル 2事例目(40分)

40分のうち、前半20分は語り手が自身の実践事例をじっくりと語り、後半20分は語り手と聴き手が対話を通して、多様な観点から共同探究をしました。

語り手が話す「地域活動」のテーマは人それぞれです。語り手と聴き手は、同じような活動をしている者同士ではないため、話を聴いたり質問されたりすることを通して、新たな気づきが生まれていました。



▲ラウンドテーブルの様子

3. ふりかえり

最後に、ラウンドテーブルを通して気付いたことや再認識したことを、語り手、聴き手、ファシリテーターそれぞれの立場でふりかえりました。

また、今後継続してこのような学びの場をつくる際に、自身がやってみたいことを参加者一人一人が想起し、「やってみたいカード」を使って発信しました。今後このような学び合いの場づくりをやりたい、語り手や聴き手、ファシリテーターをやりたいという方が半数以上いらっしゃいました。

4. 参加者の感想

実際に活動されている方々の話を直接聞ける機会は、ありそうでないため、とてもよい刺激になりました。

(聴き手 Dさんより)

杉並の今ある人的資源が繋がる仕掛けと一緒に考えていきたいと思いました。楽しかったし何となくこれからは楽しみになりました。

(ファシリテーター Eさんより)